

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全校・特別活動・全校集会

目標・人権教育のねらい

- ・児童が「安桜小みんなたいせつ宣言」の意義を理解できる。
- ・児童会が主体となって、人間関係づくりを充実することにより、自分たちの生活を振り返り、偏見や差別のない学校を願う気持ちをもつことができる。
- ・学校の教育活動を通して、児童が自らの生き方を切り拓いていく力を育むことができる。

実施した内容

- ・児童会が中心となり、仲間を大切にすることで、偏見や差別のない学校を願う学校独自の人権宣言「安桜小みんなたいせつ宣言」を設定した。【全校集会：1時間】
- ・授業中に仲間を大切にすることをテーマに特別活動を行った。【学級：1時間】
- ・自分の思いを語ることでできる人間関係づくりを大切にし、主体的に学習に参加するための指導として、少人数及び1対1の対話活動を意図的に仕組んだ。

工夫した点

- ・「安桜小みんなたいせつ宣言」を基にして、5項目「あいさつ」「名前の呼び方」「言葉遣い」「いじめ」「仲間のよさ」について、毎月振り返った。
- ・自分の考えを受け止めてもらえたときの安心感を味わわせることで、他者の考えを受け止めたり、自分の思いを積極的に語ったりする姿につながられるようにした。
- ・話し手を意識した聞き方、聞き手を意識した話し方を仲間と共に高めることで、他者の考えを尊重し、共に認め励まし合いながら学んでいる意識をもたせるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科 道徳の内容項目B-(11) 相互理解・寛容に関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：安桜小たいせつ宣言の意義を理解することができた。
 価値・態度：学級の仲間だけでなく、自分の「よいところ見つけ」を行うことで、自分の頑張りやよさにも目を向けられるようになった。
 技能：「よいところ見つけ」に書く内容の視点が増えた。
 上記の他に、よりよい学校生活になるか、仲間のためになるのか考え、行動する姿が出てきた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者に対する偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・高齢者の現状や課題、高齢者を支援し擁護している機関の取組について理解を深める。
- ・高齢者に対して自分たちができることを話し合い、今の自分自身を見つめ直すことができる。
- ・高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・社会福祉協議会から「福祉」とは何かという話を聞く。(2時間)
- ・福祉について各々に課題をもち、本やタブレットで調べ学習をする。(5時間)
- ・高齢福祉課が取り組んでいる「アクティブGメン♪75」の方から話を聞き、高齢者の活躍を聞く。(1時間)
- ・地域の民生委員さんから「地域福祉」について話を聞き、安桜地域の現状について学ぶ。(2時間)
- ・認知症のサポートをしている方から話を聞き、認知症サポーターとして自分にできることを考える。(2時間)
- ・高齢者の疑似体験を行い、高齢者に対する理解を深める。(2時間)
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、交流し、自分たちにできることを考える(2時間)

工夫した点

- ・話し合いの際に、高齢者の様子について、マイナス面だけでなく、プラス面にも目を向け、意見を出させるようにした。
- ・身の回り的高齢者の様子と関わらせて考えることで、高齢者の立場になって考えることが身近な課題であると捉えることができるようにした。
- ・疑似体験時に高齢者、介助者、観察者の全ての役割を体験し、様々な視点で気付いたことを交流できるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科 道徳の内容項目 B-(10)相互理解・寛容に関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：高齢者になると認知症という病気になったり、サポートが必要になったりすることが分かった。また、病気になるばかりでなく、社会で活躍していらっしゃる高齢者が多くいることを知った。
 価値・態度：高齢者に対して温かい気持ちで接することの大切さを学んだ。
 技能：高齢者施設訪問では、高齢者に寄り添い笑顔で話をする児童の姿が見られた。
 上記の他、他者を思いやる姿が多く見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

障がい者

対象学年・
取り扱った教科等

小学校4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がいのある人に対する偏見や思い込みを取り除き、障がい者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・障がいのある人に対する思いやりの心もち、必要に応じた手助けができる力を身に付けることができる。
- ・障がいのある人の生き方に触れることで、自らの生活や行動を振り返り、自分の生き方を見つめ直すことができる。

実施した内容

- ・調べ学習（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由）（8時間）
- ・体験（視覚障がい、介助者、ガイドヘルパー、点字、聴覚障がい者、手話、車いす、リフトバス見学、パラスポーツ）（12時間）
- ・講話（視覚障がいのある方、聴覚障がいのある方、肢体不自由者、パラスポーツ選手、介助犬ユーザー）（8時間）
- ・講話や体験を通して学んだことをまとめ、自分の生き方を見つめ直す（4時間）

工夫した点

- ・障がいのある人の話を直接聞いたり、疑似体験したりすることで、障がいの性質や困難さについて理解を深められるようにした。
- ・疑似体験時に障がいのある人、ヘルパー、観察者の全ての役割を体験し、様々な視点で気付いたことを交流できるようにした。
- ・障がいのある人に対する児童の気持ちの変化に視点をあてて授業を進めた。明るく前向きに生活している障がいのある人から生き方や考え方を学び、プラス面に目を向け、考えをもてるようにした。

他教科との
関連

上記の学習内容に合わせて、特別の教科道徳の内容項目B－(6) 親切・思いやりに関わる教材で学習し、その後、行動力を育む取組を行った。

事業成果

知識：様々な障がいがあることを知り、障がいの性質や困難さの理解が深まった。障がいのある人にどのようにサポートしていくとよいか学んだ。
 価値・態度：障がいのある人の努力している姿から、自分も前向きな気持ちで頑張っていこうという思いをもった。
 技能：視覚障がいや車いすの介助の仕方が分かり、声をかけてサポートすることができた。
 上記の他に、できないと決めつけるのではなく、自分もあきらめずに、精一杯生きようという気持ちで生活する姿が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

障がい者・高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・身近な人（家族、高齢者、幼児など）を思い浮かべ、その人に合った刃物を選び、紹介する活動を通して、障がいのある人や高齢者の立場に立って考え、思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。
- ・障がいのある人や高齢者を含め、誰にでも使いやすい製品を開発する関市の刃物会社の思いとその取組について理解を深める。

実施した内容

- ・関市で作られている様々な種類の刃物を調べ、作り手の思いを理解する。（2時間）
- ・ユニバーサルデザインの刃物の使い方を調べる。その後、身近な人を思い浮かべて、薦めたい刃物を選び、薦めたい理由を考えて紹介する。（1時間）
- ・需要が少なくても障がいのある人や高齢者などが使いやすい刃物を開発していることを理解する。また、障がいのある人や高齢者の立場に立って、自分たちにできることを考える。（2時間）

工夫した点

- ・自分では日常的に使っている道具を、高齢者や障がいのある人などの中には不便に感じる人がいることに気付けるように、実物や写真、動画を準備し、使う場面を具体的に思い浮かべられるように工夫した。
- ・需要が少なくてもユニバーサルデザインの刃物を開発し製作する刃物会社の人々の人権感覚に触れることで、自分の人権感覚を見つめ直すことができるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科道徳の内容項目B－（10）相互理解、寛容に関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

- ・知識：関市では、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの刃物など、様々な刃物が生産されていることを理解できた。
- ・価値・態度：使う人の立場に立って刃物を開発する生産者の思いを知り、自分も多様な人に思いを巡らせたいと考えることができた。
- ・技能：身近な人を思い浮かべて、相手にとって使いやすい刃物を選んだり、理由を考えて紹介することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題について正しく理解するとともに、基本的人権が尊重された社会を守っていかうとする意欲や態度を養う。
- ・江戸幕府が身分を固定化したり差別を強めるようなお触書を出したりしたことで人々の間に差別的な意識が強まり、百姓や町人とは別の身分の人々が他の身分の人々から厳しく差別されるようになっていったことが分かる。
- ・明治時代に解放令が出たにもかかわらず、厳しく差別された人々への差別がなくならなかったのは、国民の変わらぬ差別意識が大きな要因であったことが分かる。

実施した内容

- ・江戸時代の差別の実態を正しく理解する。その後、明治時代における様子について、江戸時代の様子と比較しながら理解を深め、差別を受けた人々の苦しみや悲しみについて考え話し合う。
- ・百姓や町人とは別の身分の人たちが、どうして厳しく差別されるようになっていったのかを考える。
- ・明治時代になって平等になったはずなのに、厳しく差別されてきた人々への差別がなくならなかった理由を考え、話し合う。
(各1時間)

工夫した点

- ・解放出版社発行の「部落歴史をどう教えるか」を用いて、児童が、差別の事実を認識しやすい資料や差別を受けた人々の心情を考えられる資料を教材化することで、同和問題への理解が深まるようにした。
- ・話し合いを行う時に、児童に「自分だったらどのような思いになるか」という視点で考えるように指導し、同和問題を自分のこととして考える機会を位置付けることで、国の政策や世論の風潮に流されることなく、基本的人権を尊重することが大切であることに気付けるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科道徳の内容項目C- (13) 公正・公平・社会正義に関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：学習を通して、差別がどのように生まれるのか、について考えることができた。
 価値・態度：差別に関わる事象に対して、正しい知識を知ることの大切さを認識し、理不尽な差別をなくし、人権を尊重することを大切にしたいという思いをもてた。
 技能：困っている人の立場で考えたり、公平な立場で考えたりして、解決を目指すことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌの人々の文化や生活を知り、自分とは異なる文化を有する人々について理解を深めることができる。
- ・アイヌの人々が受けた同化政策の歴史を知る活動を通して、現在のアイヌ文化との繋がりを考え、現在の課題として捉えることができる。

実施した内容

- ・寒い土地（北海道）の家の工夫や雪の対策について理解を深める。（2時間）
- ・寒い土地（北海道）の産業について理解を深める。（1時間）
- ・アイヌの人々の文化について理解を深める。（1時間）

工夫した点

- ・現在の北海道の地名はアイヌ語がもとになっていることを紹介し、アイヌの人々や文化について関心を高めた。
- ・アイヌの人々の伝統舞踊を動画で紹介した。
- ・アイヌの人々の伝統衣装や家、食べ物、生活様式などをタブレットを利用して、調べることができるようにした。
- ・アイヌの人々への同化政策の歴史について、動画とプレゼンテーションを用いて学習し、アイヌの人々への差別に対して自分なりの考えをもてるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、道徳の内容項目Bー（11）相互理解、寛容に関わる教材で学習した。また、社会科の学習後、図書館にあるアイヌに関する本を学級文庫として置き、興味をもった児童が手にとって読めるようにした。

事業成果

知識：アイヌの人々について、全く知らなかった児童が、本時を通して存在や文化について知ることができた。
 価値・態度：自分たちとはちがう人々についての理解を深めたことで、他の文化に興味をもち、認め合おうとする態度を養うことができた。
 技能：自分たちとは異なる文化について理解しようとするところができるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等小学6年生 社会科 総合的な学
習の時間目標・人権教
育のねらい

- ・ハンセン病について正しく理解するとともに、社会における偏見や差別が患者さんたちを強く苦しめたことに気付くことができる。
- ・ハンセン病患者に対して自分たちができることを話し合い、意思決定をすることができる。
- ・ハンセン病患者に対する思いやりの心もち、相手の立場に立って行動しようとする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・資料や年表から、ハンセン病の症状、国のハンセン病への対応について調べ、ハンセン病患者やその家族が偏見や差別によって強く苦しめられた事実を理解する。
- ・「ハンセン病患者と家族の声」を読み、患者やその家族が受けた苦しみについて考え話し合う。
(1時間)
- ・オンライン授業で、国立ハンセン病資料館学芸員からハンセン病について学ぶ。
(2時間)

工夫した点

- ・外部講師（国立ハンセン病資料館学芸員）による授業を行ったり、国が発行する資料を教材化したりすることで、ハンセン病について正しく理解できるようにした。
- ・話し合いを行う時に、児童に「自分だったらどのような思いになるか」という視点で考えるように指導し、ハンセン病患者等の苦しみを自分のこととして考えられるようにすることで、相手の立場に立って行動することの大切さに気付けるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科道徳の内容項目D－(19) 命の尊さに関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：同和問題に関わる学習とつなげて考え、正しく知ろうという意識をもって学び考えた。
 価値・態度：法律や政治、周りからの偏見など、差別を生み出す問題に対して「おかしい、間違っている、正していきたい」という思いをもつことができた。
 技能：学んだことを家族に伝え、教えてあげたい、もっといろいろ知りたいという気持ちをもつ児童もいた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・ インターネットは使い方を間違えると、相手や自分を傷つけてしまうことに気付くことができる。
- ・ 自分の情報との関わり方について見つめ直し、情報を適切に活用していこうとする意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・ 生活の中から、情報の活用の仕方について話し合う。（1時間）
- ・ インターネット利用で起こる問題について知り、危険性等を具体的に出し合う。使い方を間違えると相手や自分を傷つけるということへの理解を深める。（1時間）
- ・ 情報の適切な活用の仕方について考え、話し合う。（1時間）

工夫した点

- ・ 多種多様なインターネット問題の中から、実際にあった児童に身近な問題を取り上げ、資料として活用した。
- ・ インターネット利用には、よい点と問題点の両面があることに気付けるよう、マイナス面ばかりを取り上げることがないようにした。
- ・ 自分にインターネット利用に関わる問題が起きた具体的な状況を想起させ、相手の気持ちにも気付けるようにした。
- ・ 「情報活用宣言」で自分の生活を振り返ることによって、責任をもって情報と関わろうとする行動力につながるようにした。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、道徳の内容項目Bー(11)相互理解、寛容に関わる教材で学習した。また、国語「想像力のスイッチを入れよう」で、情報との関わりについて話し合う活動を行った。

事業成果

知識：インターネットは便利なものだが、様々な問題を引き起こすという側面についても理解することができた。
 価値・態度：自分のインターネットの使い方を見直したり、気を付けたりする気持ちを養うことができた。
 技能：インターネットを活用する上でのルールやマナー、注意点など身に付けることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・特別の教科 道徳

目標・人権教育のねらい

- ・人権課題として、「拉致問題」が存在していることに気付き、被害者家族の憤りに共感することができる。
- ・「拉致問題」など、人権侵害は許されないことであり、「いじめ」や「差別」など身近な人権に関する問題についても絶対に許さないという気持ちをもつことができる。
- ・めぐみさんの両親の心情やめぐみさんの人生について考えることを通して、拉致という行為は誰もがもっている人としての権利を奪うものであり、決して許されることではないと感じる心情を育むことができる。

実施した内容

- ・横田めぐみさんについて知り、アニメ「めぐみ」を見る。
- ・めぐみさんが突然いなくなり探し続けている時のご両親の気持ちについて考える。
- ・めぐみさんが拉致されたことが分かり、街で呼びかけをしていた時のご両親の気持ちについて考える。
- ・めぐみさんが拉致によって奪われたものには、どのようなものがあるか考え、「もし、自分だったら」と自分のこととして考える。
(全2時間)

工夫した点

- ・児童は、現在までに人権が奪われた経験について考える場面が少ないため、横田めぐみさんの事例を通して、社会正義を守ることの大切さ、自分たちが守る担い手となることに気付かせた。
- ・全ての人の人権を守るために、自分はどのようにするとよいか、何ができるかを考える場を設定した。
- ・拉致被害者の蓮池さんの言葉から、拉致問題は我が国の現在の問題であることを認識できるようにした。
- ・拉致問題は、北朝鮮当局による絶対に許されない行為であるが、北朝鮮の国民とは無関係のものであることを正しく伝えることで、両国国民の関係悪化を防ぐようにした。

他教科との
関連

上記の学習の前に学んだ社会科の公民分野で日本国憲法の「基本的な人権の尊重」や、その後の学習の「日本国憲法が制定されるまでの歩み」とつなげて考えさせ、理解を深めた。

事業成果

知識：今なお解決されていない「拉致問題」の事実を正しく理解できた。
 価値・態度：「拉致問題」を通して、「いじめ」や「差別」など基本的人権を侵害する行為は、絶対に許されないという気持ちをもつことができた。
 技能：全ての人の人権を守るために自分ができることを考え、まとめることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

岐阜県

学校名

関市立安桜小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・LGBTについて正しく理解するとともに、その方たちとの関わり方について考え、互いに優しく受け入れ合うことの大切さに気付くことができる。
- ・自分の周りにもLGBTの仲間がいる可能性が高いことに気付き、互いに尊重し合って生活しようとする意欲や態度を養う。
- ・関市内の中学校の制服を性差を感じさせないものにしていこうとする取組に主体的に参加することができる。

実施した内容

- ・動画や資料からLGBTについて正しく理解する。
- ・LGBTをカミングアウトする人は10%未満という現状に気付き、カミングアウトしにくい理由を考える。
- ・LGBT当事者との関わり方について考え、自分の言動が当事者を傷つけるものになっていないか振り返る。
(全2時間)

工夫した点

- ・関市が発行する「イチから学ぼうLGBT」を教材化することで、LGBTについての理解が深まるようにするとともに、関市がLGBTへの取組を大切にしていることを理解できるようにした。
- ・話し合いを行う時に、児童に「自分だったらどのような思いになるか」という視点で考えるように指導し、LGBT当事者の思いや願いを自分のこととして考える機会を位置付けることで、互いに尊重し合って生活することの大切さに気付けるようにした。
- ・行動力につなぐために、関市中学校制服変更「夢プロジェクト」への参加を位置付けた。

他教科との
関連

上記の学習に合わせて、特別の教科道徳の内容項目B－(11)相互理解、寛容に関わる教材で学習し、その後、行動力を育むための取組を行った。

事業成果

知識：LGBTの正しい知識を学ぶことができた。
 価値・態度：自分ごととして考えて、「どう関わられるか?」「受け入れていきたい」など前向きに考えることができた。
 技能：互いの違いを認め、相手の立場に立って考えたり、相手のよさを見つけたりすることができた。
 上記の他に、自分が感じていた「なんか違う」という思いを打ち明けた児童もいた。